

平成22年 5月22日現在

研究種目： 基盤研究(B)
 研究期間： 2007～2009
 課題番号： 19401021
 研究課題名(和文) 口誦から見た北部フィリピン・台湾の少数民族世界に関する言語学的・人類学的調査研究
 研究課題名(英文) Linguistic and Anthropological Researches on World View in Oral Traditions by the Minor Groups in Taiwan and the Northern Philippines.
 研究代表者
 森口 恒一 (MORIGUCHI TSUNEKAZU)
 静岡大学・人文学部・教授
 研究者番号： 10145279

研究成果の概要(和文)：

消滅しつつある台湾・フィリピンの原住民の文化・歴史等のあらゆるものが含まれている口誦に関して現地調査により収集活動を行った。その際には録音、録画、記述等の手法により将来への有意義な記録として、口誦の保存・記録に従事した。一方、調査結果を各分野一言語学；人類学；民族考古学一の観点から学際的に分析した。特に、その際に言語学的な特異な行動であると考えられていた現象が、実際は人類学的な規則の反映である事を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：

Through the field researches in Taiwan and the Northern Philippines we collected the data on Oral Traditions by the moribund aboriginal peoples. After returning to Japan we carried out the preservation of the collected data through tape-recording, video and transcriptions. The result of preservation was analyzed interdisciplinary, that is, linguistically, anthropologically and ethno-archaeologically.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2008年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2009年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：ヤミ族、ツォウ族、イヴァタン、イトバヤット、ブヌン族、口誦

1. 研究開始当初の背景

- 1) 過去30年間近く科研費の補助により台湾とフィリピンの原住民の文化・言語などの海外調査研究を行っている。

- 2) 科研費の分担者は、ほとんど変化が無く、同一の民族の研究を継続的に行っている。また、当初の研究者に加え、新たに若い研究者の参加もあった。
- 3) 調査対象地への定点観測的な

調査研究を長年継続的に行っていて、ほとんど毎年のように現地を訪問し、原住民も我々の存在を認知して来て、だんだんと協力体制が整って来た。また、政治家や政府機関の人達との交流もあり、安全に調査が行うことが可能になった。

- 4) このように現地調査体制が整っては来たが、逆に都市化と中央集権性が進み、少数民族の文化は、徐々に失われつつある。確かに戦前から種々の学問分野の研究対象となっていた台湾とフィリピンの原住民の資料の蓄積はある。
- 5) しかし、原住民の独自の生活・文化は近代化により急速に失われつつある。そして、21世紀に入ってしまった現在、現地調査による記録研究の最後のチャンスであり緊急調査の必然性を感じていた。

2. 研究の目的

- 1) 時間的に切迫しているために現存する言語学、人類学の資料を現地調査により体系的に記録し、保存を行う事を第一の目的とする。
- 2) その際には、現実の活動の記録を重要視し、カセットテープ、CDなどの音媒体の記録と音だけではわからない体の動きなどをDVD、ビデオで録画し、それらを公表することを第二の目的にする。
- 3) また、言語学だけでは解決出来ない問題は、人類学や民族考古学などの分野の研究である原住民の生活、行動の裏付けを受けて分析し、解決へと導く必要があるので、調査結果を学際的に分析することを第三の目的とした。

3. 研究の方法

- 1) 対象調査地点を絞り込み、各自それぞれに現地へ赴き調査を行った。調査地に住み込み、それぞれの関連分野の調査を行った。
- 2) 言語学は対面法により聞き取りによる記述、録音、録画を行った。また、人類学もやはり対面法による聞き取りを行った。一方、民族考古学では対面聞き取り方

の他に原住民と耕作地、かつての遺跡、畑、居住地へ赴き、調査資料を原住民の援助により収集し、それに伴う説明を記録した。また、祭り、儀礼などの過去からの伝統や、その際に使われる口誦・歌を種々の媒体により記録を行った。

- 3) 帰国後は、上記の媒体の整理を行い分担者の共通の資料として配付を行った。
- 4) 言語学では、音声資料の音響学的音声分析、語彙の整理と編集、テキストの文字化を行った。一方、人類学では原住民が記憶している口誦の内容を人類学的に分析した。
- 5) 原住民の諸文化現象を明確に解明するために、その結果を言語学、人類学、民族考古学の視点から学際的に分析し、特異な言語現象が現れる原因を究明した。

4. 研究成果

- 1) 録音、録画、記述資料の作成し、このプロジェクトに参加する研究者の記録を参加者全員に配布し、その一部を公にした。
- 2) 分担者各自が関係する分野の研究発表を行い、論文としてまとめた。
- 3) 今回のプロジェクトとしての共同研究の一環として、論文を執筆し、一冊の報告書 *Moriguchi, T. (ed.) (2010) Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. (Shizuoka University)としてまとめた。
- 4) また、言語学的には後述のHPで長年行ってきたバタニック諸語の最終的な比較語彙表を公にした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① Moriguchi, T. “Mahatao Ivatan Narratives.” Moriguchi, T. (ed) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii*

- Channel. 査読無し 2010, pp. 5-32.
- ② Moriguchi, T., T. Gaza and J.Y. Gonzales. “Vihay Dichbayat ni Faader Diinis.” 査読無し Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 2010, pp. 147 - 192.
- ③ 野林厚志、「文化資源としての創作物 — 物質文化を通じた民族の関係性 —」 Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 査読無し 2010, pp. 247 - 271.
- ④ Yamada, Y. “Place-Names of Itbayat Island of the Philippines.” Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 査読無し 2010, pp. 33 - 146.
- ⑤ 宮岡真央子 「ツォウのファタゲに関する覚え書き」 Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 査読無し 2010, pp. 221 - 246.
- ⑥ 笠原政治、「男女比率と婚姻 阿里山ツォウ旧慣に関する覚え書き」 Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 査読無し 2010, pp. 193 - 221.
- ⑦ 山田幸宏、「シイラ漁 : 土佐湾沖とバシー海峡域」『海の回廊と文化の出会い — アジア・世界をつなぐ』橋本征治編、関西大学出版会、査読無し、2009, pp. 281-307.
- ⑧ 野林厚志、「ブタ飼育における個体管理 : 台湾ヤミが行うブタの舎飼いと放し飼いの比較」『ドメスティケーション —— その民族生物学的研究』山本紀夫編 国立民族学博物館調査報告 査読あり、2009 pp. 30-45.
- ⑨ 森口恒一、「北ブヌンに見られることばのヴァリエーションと生業・儀礼・社会組織との関係」『原住民研究』査読あり、Vol. 12 2008. pp. 60-84.
- ⑩ 森口恒一、「バタン等とバブヤン諸島」『原住民研究』査読あり Vol. 12 2008. pp. 184-199.

- ⑪ 野林厚志、「博物館展示における台湾原住民文化」『原住民研究』 査読あり、Vol. 12 2008. pp. 33-59.
- ⑫ 野林厚志、「台湾における乾杯」『乾杯の文化史』 神崎宣武編 査読あり ドメス出版、2008 pp. 245-273.
- ⑬ 宮岡真央子、「日常を生きる困難と伝統文化の語り —台湾ツォウ族の伝統首長をめぐる<蜜蜂事件>からの事例から」『社会人類学年報』東京都立大学人類学編、査読あり、弘文堂 2008 pp.150-170.
- ⑭ 笠原政治、「屋内埋葬の慣習が廃棄された頃—日本統治時代の記録に残る高一生(矢多一生)の発言をめぐる」『高一生研究』第七号、査読無し、風草館、2007. pp. 1-16.

[学会発表] (計1件)

- ① 2009年8月6日
順益研究会(馬淵東一と台湾原住民研究)
於: 日本大学経済学部
- 森口恒一 「馬淵東一と言語学」
笠原政治 「馬淵東一と人類学」
野林厚志 「馬淵東一と民族考古学」

[図書] (計2件)

- ① Moriguchi, T. (edt) Shizuoka University. *Minority Groups in Taiwan and the Bashii Channel*. 2010, 271 ページ
- ② 野林厚志、お茶の水書房、『イノシシ狩猟と民族考古学: 台湾原住民の生業文化』2008. 263 ページ

ホームページ等

http://www.coelang.tufts.ac.jp/multilingual_corpus/batan/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森口恒一 (MORIGUCHI, Tsunekazu)
静岡大学・人文学部・教授
研究者番号: 10145279

(2) 研究分担者

山田幸宏 (YAMADA, Yukihiro)
姫路獨協大学・医療保健学部・教授
研究者番号：00036659

笠原政治 (KASAHARA, Masaharu)
横浜国立大学・教育人間科学部・
名誉教授
研究者番号：70130747

野林厚志 (NOBAYASHI, Atsushi)
国立民族学博物館・准教授
研究者番号：10290925

宮岡真央子 (MIYAOKA, Maoko)
福岡大学・人文学部・講師
研究者番号：704351133

(3) 連携研究者

なし